

昆虫が媒介する野菜・花き類のウイルス病

近年昆虫が媒介するウイルス病が増加し、その防除がますます重要になってきています。ウイルス病は一度感染してしまうと治療できないので、媒介昆虫を防除することで感染の拡大を防ぐしかありません。本稿では防除の参考になるように、昆虫が媒介するウイルス病について紹介します。

昆虫が媒介する主な野菜・花き類のウイルス病

野菜・花き類の主なウイルスは、アザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類など微小な吸汁性害虫によって媒介されます。（別表 「昆虫が媒介する野菜・花き類のおもなウイルス病」）

長野県における発生状況

長野県では、1979年きゅうりでオンシツコナジラミが媒介するきゅうりの「キュウリ黄化病」（BPYV、特殊報発表当時の名称はCuYV）が初確認されました。その後1987年にホウレンソウでBBWV、1990年にきゅうりでZYMVが初確認されました（いずれもアブラムシ類が媒介）。97年から2000年にかけて、きく・トマト・レタスでTSWV、2001・2002年にはトルコギキョウとピーマンでINSV、2002年にはトルコギキョウでIYSVが初確認されました（いずれもアザミウマ類が媒介）。その後新しいウイルス病の発生は確認されませんでした。2011年にはきくでアザミウマ類が媒介するCSNV、2013年にはトマトでタバココナジラミが媒介するTYLCVが初確認されました。

媒介昆虫の防除

登録がある殺虫剤による防除が基本ですが、薬剤抵抗性が発達しやすく効果が低い場合も考えられますので、散布後の防除効果の確認は必ず行ってください。

媒介昆虫の侵入防止に有効な防虫ネットによる開口部の被覆、粘着シート、UVカットフィルムの使用等物理的手段も併用するとより効果的です。

また、カブリダニ類、アブラバチ類、ツヤコバチ類等を使用した天敵製剤や、天敵糸状菌等による微生物資材の使用も有効です。



キク茎えそ病 (CSNV、アザミウマ類媒介ウイルス) による茎のえそ条斑



トマトモザイク病 (CMV、アブラムシ類媒介ウイルス) による葉の奇形



トマト黄化葉巻病 (TYLCV、タバコナジラミ媒介ウイルス) による葉巻症状